

研究者のみなさまへ

～責任ある研究活動を目指して～

To All Researchers

—Conduct for Responsible Research Activities—

致各位研究人员

～致力于负有责任的研究活动～



平成 28 年 6 月

June 2016

2016 年 6 月

国立研究開発法人

科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

Japan Science and Technology Agency

国立研究開発法人 科学技術振兴机构

はじめに

近年の相次ぐ研究不正行為や不誠実な研究活動は、科学と社会の信頼関係を揺るがし、科学技術の健全な発展を阻害するといった憂慮すべき事態を生み出しています。研究不正の防止のために、科学コミュニティの自律的な自浄作用が機能することが求められています。研究者一人ひとりからは自らを厳しく律し、崇高な倫理観のもとに新たな知の創造や社会に有用な発明に取り組み、社会の期待にこたえていく必要があります。

科学技術振興機構（JST）は、研究資金の配分機関として、研究不正を深刻に重く受け止め、関連機関とも協力して、社会の信頼回復のために不正防止対策について全力で取り組みます。

1. JST は研究活動の公正性が、科学技術立国を目指すわが国にとって極めて重要であると考えます。
2. JST は誠実で責任ある研究活動を支援します。
3. JST は研究不正に厳正に対処します。
4. JST は関係機関と連携し、不正防止に向けて研究倫理教育の推進や研究資金配分制度の改革などに取り組みます。

私たちは、夢と希望に満ちた明るい未来社会を実現するために、社会の信頼のもとで健全な科学文化を育まねばなりません。引き続き、研究コミュニティや関連機関のご理解とご協力をお願いします。

平成 24 年版の科学技術白書では、科学技術に対する意識の変化について「これまで国民は、科学技術に対して大きな期待と信頼を寄せていたが、科学者や技術者に対する国民の信頼感は低下した」と述べられています。

また、平成 26 年版の同白書では、「研究不正は、研究活動の本質・趣旨を研究者自らがゆがめ、科学への信頼を揺るがす、絶対に許されない行為である。」「科学に対する社会の信頼確保に努めていくことが重要である。」と公正な研究活動の推進について述べられています。



科学者の行動規範

(科学者の基本的責任)

- 1 科学者は、自らが生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するという責任を有する。

(科学者の姿勢)

- 2 科学者は、常に正直、誠実に判断、行動し、自らの専門知識・能力・技芸の維持向上に努め、科学研究によって生み出される知の正確さや正当性を科学的に示す最善の努力を払う。

〈出典〉

日本学術会議『声明 科学者の行動規範—改訂版—』（平成 25 年）



研究活動における不正行為とは

1 捏造 (Fabrication)

存在しないデータ、研究結果等を作成すること。

2 改ざん (Falsification)

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

3 盗用 (Plagiarism)

他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること。

4 その他

同じ研究成果の重複発表、論文著作者が適正に公表されない不適切なオーサーシップなども不正行為の代表例と考えることができます。

※二重投稿は、適切な引用がされていない場合、自己盗用とみなされることがあります。

〈出典〉

文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」
(文部科学大臣決定、平成 26 年 8 月 26 日)

研究活動における不正行為の処理の流れは、告発窓口へ事案の通報・申立が行われ、所属の機関における調査委員会等により、告発内容に関する調査が行われることが一般的な手続きになります。

その際、誠実な研究行為のなかで起きたミスや学術上の解釈の問題については、上記の不正行為には当たりません。ただし、故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠った場合は、不正行為とみなされます。



捏造・改ざん・盗用とその他の不正行為全体をまとめて「研究活動における不正行為」といいます。

特に、捏造・改ざん・盗用は、文部科学省のガイドラインでは「特定不正行為」と称され、さまざまなペナルティ（7ページ参照。）が科されますのでご注意ください。

研究活動における不正行為

<特定不正行為>

捏造・改ざん・盗用

<その他の不正行為>

二重投稿、不適切なオーサーシップ等

論文などの投稿時に不正行為とならないために気をつけること

- 自分が所属する研究機関の倫理綱領の内容を確認していますか？
- 自分が所属する学協会の倫理綱領や論文投稿規定の内容を確認していますか？
- 再現性があることの確認をして発表していますか？
- 生データ、実験で扱った試料、実験ノートの保存・管理はできていますか？
- 共著者を含んだものについては、それぞれが寄与した部分を当事者間で確認し、その内容に共同の責任を負うことに合意はとれていますか？
- 投稿誌の二重投稿規定に抵触していないことを確認していますか？
- 二重投稿や盗用とならないように、既に発表されている著作物の表現や内容については、引用であることを示していますか？

他にどのようなことに気をつける必要があるでしょうか？

そして、正しい研究活動をするために、自分自身で日頃から心がけられることは他にどのようなことがありますか？

科学者のあるべき姿や、責任ある研究活動を意識して研究に取り組んでください。

正しい研究活動とは！

過去の事例

1 ジョン・ダーシー事件（1981年）

才能豊かで将来を嘱望された研究者にして内科医のジョン・ダーシーが、結果をでっちあげたのが見つかった。捏造事件が一つ暴露されると、ダーシーが勤務していたハーバードなどで行われた調査により、その不祥事が他でも起こったことが明らかになった。

ダーシーによって集められたデータは、共同研究をした研究室の結果と矛盾していた。科学における共同研究は、研究グループのメンバー全員が正直であるという相互的信用や信頼関係に基盤を置くものである。十分練られた欺瞞というものに、常に誰もが不意打ちをくうであろう。

〈出典〉

アレクサンダー・コーン【著】、酒井シヅ・三浦雅弘【訳】
『過失と不正の科学史 科学の罫』工作舎（平成2年）

2 シェーン（ベル研）事件（1998年）

若手ドイツ人研究者シェーンは、分子性有機物結晶を使った超伝導の発見、電子素子の開発など、物性物理・化学関係者が期待していた重要な成果を次々にあげ、短期間に Science、Nature などに多くの論文を発表、さらに表紙も飾った。ノーベル賞を複数回受賞しうる成果との評判もあったが、重複データの存在、多すぎる論文数、追試による再現性の不可能性などから不正行為が発覚した。ノイズまで酷似した二つの全く異なる実験のデータは、捏造の動かせぬ証拠となった。結局、論文のほぼすべてが撤回された。

〈出典〉

日本学術会議 学術と社会常置委員会

『学術と社会常置委員会報告 科学における不正行為とその防止について』（平成15年）

3 アルサブティ事件（1977年）

アメリカの研究機関の最先端で働いていたエリアス・A・K・アルサブティは、読者の少ない雑誌に、盗用した論文を罰せられることなく発表していた。彼の目的は、他の多くの科学者同様経歴を飾るための長々しい論文リストによって出世することだった。こうして彼は三年もの間盗用を続けた。しかし、論文の一言一句まで無雑作に盗む彼の性急なやり方は、ついには彼を破滅へと追いやったのである。これがもっと穏やかな方法であれば発覚しなかったことだろう。

〈出典〉

ウィリアム・ブロード、ニコラス・ウェイド【著】、牧野賢治【訳】
『背信の科学者たち』講談社（平成18年）

捏造・改ざん・盗用と認定された場合の JST における措置

- (1) 被認定者に係る研究課題の全部又は一部の執行中止
- (2) 申請課題の不採択
- (3) 不正行為等に該当する研究費の全部又は一部の返還
- (4) 機構の全部又は一部の事業への申請資格又は参加資格の制限
- (5) 前各号に掲げるもののほか、機構が必要と認める処分

上記(4)における資格制限期間は、次の表のとおりです。

認定された日以降で、その日の属する年度及び翌年度以降1年以上10年以内の間で不正行為への関与による区分を勘案して相当と認められる期間

【申請資格又は参加資格の制限期間】

不正行為への関与による区分		不正行為の程度	相当と認められる期間	
不正行為に関与した者	1 研究の当初から不正行為を行うことを意図していた場合など、特に悪質な者		10年	
	2 不正行為があつた研究に係る論文等の著者	当該論文等の責任を負う著者（監修責任者、代表執筆者又はこれらのものと同等の責任を負うものと認定されたもの）	当該分野の研究の進展への影響や社会的影響が大きく、又は行為の悪質性が高いと判断されるもの	5～7年
		上記以外の著者	当該分野の研究の進展への影響や社会的影響が小さく、又は行為の悪質性が低いと判断されるもの	3～5年
	3 1及び2を除く不正行為に関与した者		2～3年	
不正行為に関与していないものの、不正行為のあつた研究に係る論文等の責任を負う著者（監修責任者、代表執筆者又はこれらの者と同等の責任を負うと認定された者）		当該分野の研究の進展への影響や社会的影響が大きく、又は行為の悪質性が高いと判断されるもの	2～3年	
		当該分野の研究の進展への影響や社会的影響が小さく、又は行為の悪質性が低いと判断されるもの	1～2年	

－ 国立研究開発法人 科学技術振興機構『研究活動における不正行為等への対応に関する規則』（平成27年3月）－

JST の競争的資金事業において上記の申請等資格制限が科された場合、他の競争的資金制度（8府省所掌）においても同様の制限が一斉適用されますのでご注意ください。

Introduction

The recent incidents involving misconduct and dishonesty in research activities have resulted in an alarming condition that threatens the relationship of trust between science and society, and hinders the healthy development of scientific technologies. To prevent misconduct in research activities, autonomous self-purification of the scientific community must function. Each researcher must strictly discipline him/herself and work to create new knowledge and inventions that are useful for society, based on a high moral standard to meet the expectations of society.

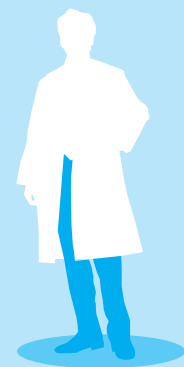
As a funding agency for research, the Japan Science and Technology Agency (JST) considers research misconduct a grave issue and makes every effort to prevent it in cooperation with relevant organizations, thereby aiming to regain public trust.

1. JST believes that honesty in research activities is extremely important for Japan, which seeks to develop itself through science and technology.
2. JST supports honest and responsible research activities.
3. JST strictly condemns any misconduct in research activities.
4. JST will promote education in research ethics and reform its research funding programs in cooperation with relevant organizations, in order to prevent misconduct.

We must develop a healthy scientific culture based on social trust toward building a society filled with hopes and dreams for a bright future. We therefore request the continued understanding and cooperation of the research community and related institutions.

The White Paper on Science and Technology 2012 commented on the public attitude toward S&T, “The Japanese public has relied on and trusted S&T to a high degree, but now their confidence in scientists and engineers is diminishing.”

Concerning the promotion of honest research activities, the 2014 edition of this White Paper states that misconduct in research is an absolutely unforgivable act of a researcher who distorts the essence and intentions of research activities, and thus threatens the public trust in science, and that ensuring the trust of society in science is very important.



Code of Conduct for Scientists

(Basic Responsibilities of Scientists)

1 Scientists shall recognize that they are responsible for assuring the quality of the specialized knowledge and skills that they themselves create and for using their expert knowledge, skills, and experience to contribute to the health and welfare of humankind, the safety and security of society, and the sustainability of the global environment.

(Attitude of Scientists)

2 Scientists shall always make judgments and act with honesty and integrity, endeavoring to maintain and improve their own expertise, abilities, and skills and shall make the utmost effort to scientifically and objectively demonstrate the accuracy and validity of the knowledge they create through scientific research.

〈reference〉

“Statement Code of Conduct for Scientists-Revised Version-” (2013)
Science Council of Japan



What are Misconducts in Research Activities?

1 Fabrication

Making up data or research results, etc.

2 Falsification

Manipulating research materials, equipment, or process to change data or results obtained from research activities.

3 Plagiarism

Appropriating the ideas, analysis, analytical methods, data, research results, research paper(s), or words of other researchers without obtaining the permission of the researchers or giving appropriate credit.

4 Other Misconducts

Multiple submission of the same research results and inappropriate authorship (failure to attribute authorship of a paper to the qualified authors) are also examples of misconducts in research activities.

※A duplicate submission with no proper citation may be regarded as a self-plagiarism.

<reference>

“Guidelines for Responding to Misconduct in Research”

Adopted August 26, 2014 by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

In general, misconducts in research activities, when alleged and considered prosecutable, will be reviewed by the investigation committee of the responsible research institution. Mistakes and issues in academic interpretation that arise in honest research behavior do not correspond to the wrongful acts above, unless such acts are committed intentionally or the researcher’s basic duty of care has been seriously neglected.



Fabrication, Falsification, Plagiarism(FFP) and all other wrongdoings are collectively called misconduct in research activities.

Note that fabrication, falsification, and plagiarism are termed the specific research misconduct in the MEXT guidelines, and subject to various penalties (see page 13).

Misconduct in Research Activities

< Specific research misconduct >
Fabrication · Falsification · Plagiarism

< Other types of misconducts >
duplicate submission, inappropriate authorship, etc.

Check Points for Prevention of Misconducts before Submitting Papers

- Have you checked the ethical codes of the organization you belong to?
- Have you checked the ethical codes and the authorship rules of academic societies you are affiliated with?
- Have you checked the reproducibility of your research results before submitting papers?
- Are your raw data, experimental specimen, and laboratory notebooks well stored and managed?
- Has each of your coauthors confirmed his or her contribution and the shared responsibility in the publication?
- Have you checked that your intended publication does not infringe upon duplication of publication as defined in the journal?
- Have the expressions and contents in your submission paper cited other publications for avoidance of duplicate publications or plagiarism?

Think about what the sound research activities are based on!

What else will there be to pay attention to?

What else will there be to pay attention to day-to-day for fair research activities?

In implementing your research, be conscious of how the scientists should conduct themselves and how the responsible research activities ought to be performed.

Past Examples

1 The John Darsee Case (1981)

A brilliant and promising researcher and physician, John Darsee, was caught faking results in the laboratory of prominent research leader and clinician. When a faking incident came to light a thorough investigation at Harvard and others, the incident was not an isolated one.

The data, collected by Darsee contradicted the results of collaborating laboratories. Collaboration in scientific research is based on mutual trust and confidence in the integrity of all participants of research group; a well-designed fraud will always take everybody by surprise.

<reference>

“FALSE PROPHETS—Fraud and Error in Science and Medicine”

by Alexander Kohn

2 The Schön Case (Bell Laboratories Case) (1998)

Schön, a young German researcher, generated important accomplishments such as the discovery of superconductivity using organic molecular crystals and the development of electron elements, which had been looked forward to by condensed-matter physicists and chemists. He published a number of articles in *Science*, *Nature*, etc., and even made the covers of publications during a short time period. His accomplishments were reputed to deserve more than one Nobel Prize, but misconducts in his scientific research were exposed through such observations as duplicate use of data, an unusually large number of publications, poor reproducibility, etc. Among the misconducts were two sets of different experimental data with virtually identical noise signals that proved his fabrication. Eventually, most of his publications were withdrawn.

<reference>

“Concerning Scientific Misconducts and Their Prevention. A Report from Standing Committee on Science and Society” Standing Committee on Science Council of Japan

3 The Alsabti Case (1977)

Elias A. K. Alsabti operated at the extreme edge of the U.S. research establishment, publishing stolen work with impunity in seldom-read journals. His goal, like that of many scientists, was to further his career by compiling a long list of published papers, the scientific article being the basic coin of career advancement. In the end, after three years of plagiarism, it was his brash manner, his cavalier theft of whole papers word for word, that brought his downfall. An operation more subtle might never have been detected.

<reference>

“Betrayers of the Truth: Fraud and Deceit in the Halls of Science”

by William J. Broad, Nicholas Wade

JST's Countermeasures when Fabrication, Falsification, or Plagiarism is Acknowledged with a Researcher

- (1) Discontinuation, in total or in part, of the research activities in which the acknowledged researcher is related
- (2) Rejection of research proposals from the acknowledged researcher
- (3) Return, in total or in part, from the acknowledged researcher, the allowed research fund related to the misconduct
- (4) Restriction, in total or in part, of the eligibility of the acknowledged researcher for application or participation in JST's projects
- (5) Other punishments deemed necessary by JST to impose

The table below lists the eligibility restriction periods described in (4) above.

Restriction periods are reasonably assigned periods, ranging from one to ten years, according to the degrees and classes of misconducts and begin the year of or the year following the acknowledgement.

[Restriction Period of Eligibility for Application or Participation in JST's Projects]

Classification of misconduct		Degree of misconduct	Reasonably assigned periods
Those related to the misconduct	1 Aggravated Misconduct because intended or planned at the start		10 years
	2 Authors of publications guilty of misconduct	Person in charge of the publication (supervising editor, representative author, or those with equal responsibility)	Major influences on development of the research area or society, or strongly aggravated.
			Minor influences on development of the research area or society, or weakly aggravated.
	Other than the above		2–3 years
3 Those involved in misconduct other than 1 and 2 above		2–3 years	
Those responsible for the publication based on misconduct but not related to the misconduct themselves (supervising editor, representative author, or those with equal responsibility)		Major influences on development of the research area or the society, or strongly aggravated.	2–3 years
		Minor influences on the development of the research area or the society, or weakly aggravated.	1–2 years

"Rules for Responding to Misconduct in Research Activities." (March 2015) by Japan Science and Technology Agency

Note that if the restrictions above are imposed on the eligibility to apply for JST competitive fund projects, such restrictions will also apply to other competitive fund programs (under jurisdiction of the eight Ministries and Cabinet Office).

前 言

近年连续发生的研究活动舞弊行为和不诚实的研究活动，造成了撼动科学与社会的信赖关系，阻碍科学技术健全发展的忧虑事态。为了防止研究活动中的舞弊行为，要求科学团体能够发挥自我约束的自净功能。每一个研究人员都必须严格自律，在崇高的伦理观之下致力于创造新的知识和对社会有益的发明，以满足社会的期待。

科学技术振兴机构 (JST) 作为分配研究资金的机构，对研究中的舞弊行为给予深刻重视，并与有关机构协作，为了恢复社会的信赖，竭尽全力开展防止舞弊行为的对策。

1. JST 认为研究活动的公正性，对于以科学技术立国为宗旨的我国至关重要。
2. JST 对诚实且有责任的研究活动给予支援。
3. JST 对研究中的舞弊行为加以严正处罚。
4. JST 与有关机构协作，为了防止研究活动中的舞弊行为，致力于推进研究伦理教育和研究资金分配制度改革等活动。

为了实现充满理想和希望的光明的未来社会，我们必须在社会信任之下，培育健全的科学文化。今后尚望继续对研究团体和有关机构赐予理解和大力协助。

在 2012 年版的科学技术白皮书中，关于科学技术意识的变化有下面的记述：“多年来，国民对科学技术抱着极大的期待和信任。然而近年来国民对科学工作者和技术人员的信任有了下降。”

并且，在 2014 年版的科学技术白皮书中，就有关开展公正的研究活动有下面的记述：“研究活动中的舞弊行为是研究人员本身歪曲了研究活动的本质和宗旨，摇撼了对科学的信任，这是绝不允许的行为。”，“努力致力于确保社会对于科学的信任至关重要。”



科学工作者的行动准则

(科学工作者的基本责任)

1 科学工作者要对自己创造出的专业知识和技术质量负责。此外，科学工作者还要通过自己的专业知识，技术和经验，为人类的健康和福利，社会的安全和安宁，以及维持地球环境可持续发展作出贡献，科学工作者对上述工作负有责任。

(科学工作者的态度)

2 科学工作者在科研工作中必须认真，诚实，专心致力于维持和提高自己的专业知识，能力和技能，并确保科学研究成果的正确性和正当性作出最大的努力。

《资料来源》

日本学术会议《声明 科学工作者的行动准则—改订版》(2013 年)



什么是研究活动中的舞弊行为

1 捏造 (Fabrication)

捏造不存在的数据，研究成果等。

2 窜改 (Falsification)

通过修改研究资料 / 机器 / 实验过程，对数据及其他研究活动结果等进行加工，窜改为非真实的结果。

3 剽窃 (Plagiarism)

在没有获得该研究人员的同意或运用正确引用标识的情况下，挪用该研究人员的构思，分析·剖析方法，数据，研究结果，论文或用语等。

4 其他的舞弊行为

重复发表相同的研究成果，不写明论文作者等的著作权（没有著作权标识）等也有可能被认定是舞弊行为的典型例子。

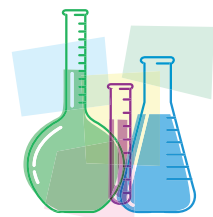
※没有正确引用标识的一稿两投，有时也会被认定是自我剽窃行为。

《资料来源》

文部科学省《关于研究活动中舞弊行为的应对等指导方针》
(文部科学大臣决定，2014年8月26日)

研究活动中的舞弊行为的一般的处理流程是：向告发窗口通报 / 申报案件，通过所属机关的调查委员会等，对告发内容进行调查。

届时，在诚实的研究行为中发生的错误，或因学术方面的解释问题，不属于上述舞弊行为。但是，对于故意或者作为研究人员本应判别的基本注意义务有显著怠慢之际，则视为舞弊行为。



捏造，窜改，剽窃和其它舞弊行为总称为“研究活动上的舞弊行为”。

特别是捏造，窜改，剽窃，在文部科学省的指导方针中称为“特定舞弊行为”，将会受到各种处罚（参照第 19 页），请予以注意。

研究活动中的舞弊行为

< 特定舞弊行为 >

捏造，窜改，剽窃

< 其他的舞弊行为 >

一稿两投，不适当的著作权等

论文投稿之前，必须充分注意下述情况，避免舞弊行为认定。

- 你是否确认了自己所属的研究机关的伦理纲领？
- 你是否确认了自己所属的学会 / 协会的伦理纲领和论文投稿规定的内容？
- 你是否确认了结果的重现性后才发表？
- 你是否保存，管理好原始数据，实验使用过的试料和实验笔记本？
- 如果有共同作者，当事人之间是否已确认好各自作出贡献的部分，并以共同的责任对其内容负责一事达成协议？
- 是否已确认没有抵触刊登杂志的一稿两投的规定？
- 对已发表的著作的表述和内容，是否已写明是引用，以免被认为是一稿两投或剽窃？

是否有其他应该注意的事宜？

为了正确地进行研究活动，自己平常是否还注意到其他的事宜？

在进行研究活动时，请意识到科学工作者应有的作风态度，并对研究活动负责。

正确的研究活动！

过去的事例

1 John Darsee事件（1981年）

John Darsee 是一个极有才华的内科医生，人们认为他的前途无可限量。但是他被发现捏造了结果。在一个捏造事件发现后，他曾所属的哈佛大学和其他工作单位都进行了调查，发现他还曾有其他各种舞弊行为。

Darsee 的舞弊行为源于他搜集的数据与研究室共同研究的结果出现的矛盾。科学上的共同研究是以研究集团全体成员必须正直，互相信用，互相信任为基础的。对准备周到的欺诈行为，任何人都会觉得防不胜防。

《资料来源》

Alexander Kohn【著】，酒井 sizu/ 三浦雅弘【译】

《过失和舞弊的科学史 科学的陷阱》工作舍（1989年）

2 Schön（贝尔研究所）事件（1998年）

Jan Hendrik Schön 是一位年轻的德国研究员。他使用分子性有机物质结晶发现了超导，并参与了电子元件的开发等，并取得了物性物理，化学有关人士期待多年的重要成果。在极短期内，他在 Science, Nature 等上发表了多篇论文，并当选封面人物。许多人评价他的成果已可获复数次的诺贝尔奖。但是，之后重复的数据的存在，大量的论文，以及不能通过重试获得重现性等原因，人们发现了他的舞弊行为。两个完全不同的实验数据竟然连噪音也极相似，这成了他捏造数据的铁证。结果，他的所有论文都被撤稿。

《资料来源》

日本学术会议 学术和社会常置委员会

《学术和社会常置委员会报告 关于科学的舞弊行为及其防止》（2003年）

3 Alsabti事件（1977年）

Elias A. K. Alsabti 在美国研究机关的第一线工作。他在读者较少的杂志上发表了剽窃的论文，但是没有被惩罚。他的目的和许多科学工作者一样，为了矫饰经历，他编造了很长的已发表论文一览表，希望以此获得晋升。这样，他剽窃了三年。但是因为他性急，剽窃方法粗略明显，完全作文抄公，最终被赶上了绝路。如果他采用较稳妥的办法，很可能就不会被发现。

《资料来源》

William Broad, Nicholas Wade【著】 牧野贤治【译】

《背信弃义的科学工作者》讲谈社（2006年）

被认定为编造・窜改・剽窃时 JST 采取的措施

- (1) 停止执行与被认定人有关的研究课题的全部或一部分
- (2) 取消申请课题采用资格
- (3) 返还该舞弊行为等的研究费的全部或一部分
- (4) 限制对JST的全部或一部分的研究基金的申请资格或参加资格
- (5) 除上述各项外，JST还有可能采取其他认为有必要的处分。

上述(4)的资格限制期间如下表所示。

从被认定之日起，在该日所属的年度和第二年度以后，在 1 年以上 10 年以内的期间内，根据对舞弊行为的参与程度进行分类，被认为相应的期间。

【申请资格或参加资格的限制期间】

舞弊行为的分类		舞弊行为的程度	资格限制期间	
参与舞弊行为的人	1 从一开始研究，就意图舞弊行为等，性质极其恶劣的研究人员。		10年	
	2 与舞弊行为的研究有关的论文等的作者	应对论文等负责的作者(监修负责人，代表执笔者或被认定为要负同等责任的人)	被认为对该领域的研究发展有巨大的影响，以及社会影响较大时，或行为的性质极其恶劣时。	5~7年
			被认为对该领域的研究发展影响较小，以及社会影响较小时，或行为的性质恶劣性较低时。	3~5年
	上述以外的作者		2~3年	
3 1和2以外的舞弊行为的人		2~3年		
虽然没有参与舞弊行为，但对出现了舞弊行为的研究的论文等负有责任的作者(监修负责人，代表执笔者或被认定为负有与上述人士相同的责任的人)		被认为对该领域的研究发展有巨大的影响，以及社会影响较大时，或行为的性质极其恶劣时。	2~3年	
		被认为对该领域的研究发展影响较小，以及社会影响较小时，或行为的性质恶劣性较低时。	1~2年	

— 国立研究開発法人 科学技術振興機構《关于与舞弊行为等有关的告发等的处理和处分的规则》(2015年3月) —

在 JST 的竞争性资金事业中受到上述申请等资格限制时，在其它的竞争性资金制度(8 政府部委所辖)中，也一起适用同样的限制，请予以注意。

参考文献

- 日本学術会議
学術と社会常置委員会報告
『科学における不正行為とその防止について』（平成15年）
『科学におけるミスコンダクトの現状と対策』（平成17年）
『声明 科学者の行動規範について』（平成18年、改正平成25年）
- 文部科学省
『研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン』（平成26年）
- 日本化学会【編】『研究室マネジメント入門』（平成22年）
- 競争的資金に関する関係府省連絡会申し合わせ
競争的資金の適正な執行に関する指針（平成17年、改正平成24年）

References

- Science Council of Japan
Reports from the Standing Committee on Science and Society
“Regarding Misconducts in Science and Their Prevention” (2003)
“Current Status and Countermeasure for Misconducts in Science” (2005)
“Statement Code of Conduct for Scientists” (2006, revised version 2013)
- Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
“Guidelines for Responding to Misconduct in Research” (2014)
- Chemical Society of Japan, ed.
“Introduction to Management of Research Laboratories” (2010)
- Inner talking of Related Ministries and Agencies on Competitive Funding
Guideline for Proper Execution of Competitive Funding
(2005, revised version 2012)

参考文献

- 日本学术会议
学术和社会常设委员会报告
《关于科学的舞弊行为及其防止》（2003年）
《科学上的舞弊行为的现状及其对策》（2005年）
《声明 关于科学工作者的行动规范》（2006年，修改2013年）
- 文部科学省
《关于研究活动中舞弊行为的应对等指导方针》（2014年）
- 日本化学会《编》《研究室管理入门》（2010年）
- 与竞争性资金有关的相关政府部委的联络协议（2005年，修改2012年）



問い合わせ先
国立研究開発法人
科学技術振興機構 研究公正課
TEL 03-5214-8390
E-mail ken_kan@jst.go.jp

Contact us
Research Integrity Division,
Japan Science and
Technology Agency(JST)
Phone:+81-3-5214-8390

如有疑问, 请联系
国立研究開発法人
科学技术振兴机构 研究公正課
电话 +81-3-5214-8390